

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年8月28日（火） 午後7時3分～8時54分
会 場 亀居分館（大井中央町会）
天 気 晴れ

参加者 19人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆住宅街に昭和40年代に設置された公設の消火栓があるが、増改築などで邪魔となり撤去されてきている。消防車が来るまでの活用ができなくなるのではないか。地域防災計画の見直しの中で設置していく方向で考えているのか。今後どのようにしていく考えなのか。

避難場所と避難所は名前が似ているがその相違は。

事業評価の中で公民館分館は民間化となっていて、上福岡地域の集会所のように民間化していく考えがあると聞いているがどう考えているのか。

☆いままでは、簡易消火栓の位置付けがあいまいであった。かなりのものが開発に伴って設置されたもので民設のものが多い。初期消火に有効であり、現在設置してあるものの今後の管理方法は、基本的には行政で費用負担をして消防署管理にしたいと考えている。地域防災計画の見直し中での位置付けについては、もう少し慎重に考えたい。東京都では、消防車も入れない狭い住宅街では、消防署が使用する消火栓に直付けにして使用できるホースを設置している例もある。しかし、消火栓や簡易消火栓は、水道管が使用できることが前提であり、地震で水道管が破裂などすると使用できなくなる。また、街中に消火器を設置している例もある。しかし、これはかなりの費用負担となるので、現在、何が一番有効なのかを検討している状況。今あるものについては、今後有効に活用していきたい。

避難所と避難場所との違いについてですが、このことは大変重要なことです。避難所とは、防災マップにある地域防災拠点のことで、この地域は大井中となりますが、濃い緑色となっている小中学校を中心に20箇所あります。避難場所は、薄い緑色となっている場所で、少し広めで地域が固まって避難できる場所であり、自分の命を守る場所となります。皆さんは、いざ地震があると避難所である大井中に行くことしか考えないが、まずは避難所に向かうのではなく、身近にある駐車場や畑など安全な場所にまずは避難して下さい。そこで自分の命の安全を確保して落ち着いてから危険を避けながら安全な経路で避難所に向かってほしい。東日本大震災という想定外のことが起き、今までの国、県、市の防災計画は全く意味がなくなった。ある会場では、東京湾に津波が来たら荒川をどの位遡上するのかという質問が出たが、国からは公式な見解は示されて

いない。現在国が防災計画の見直し実施し、冬頃に示される予定となっている。ある国の役人の話では、想定はいくらでも高くすることができ、例えば簡単に100mの津波を想定することも可能である。しかし、そのような想定では、その対応は不可能、お手上げとしか言えない。必要なことは対応できる最大限の想定を示して、それに対応した避難計画を作ることである。

皆さんによく話しをすることは、災害は発生する場所や時間帯によって全く違う。発生が昼か夜か深夜か、平日か土日か、夏か冬かなどによって状況が違って来る。例えば、冬の北風が強く吹いていて、時間帯が夕方の夕食時で火を使用し、また、ストーブなども使用している時に災害が発生すれば、火災が各地で同時に多発する。その場合、この地区にある消防車の数では対応できない。また、水道管がどの位使えるかもわからない。このように手に負えない時には、皆さんが自分で自分の命を守ることが重要となる。まずは、身近な安全な場所に避難し、そこで命の助かった人同士で協力して近所の人を助けてほしい。その時に、自治会単位でジャッキやバールなどがあれば人を救うことに役に立つ。阪神淡路大震災では、垂木一本で助けられた命と言われている。倒壊した家に挟まれて逃げられずに亡くなった方も多くいた。その時に垂木が一本でもあれば、テコの原理で女性の手でも助けることができたと言われている。また、家の中から逃げる時には、廊下などは窓や食器棚の割れたガラスが散乱して裸足では歩くことはできない。そこで常に枕元に靴やスリッパを用意することもお願いしたい。そのように、まずは自分で自分の命を守り、その数が多ければ多いほど、その命でこの地域を守ることができる。そのことが大変重要です。その手段の一つとして簡易消火栓や消火器は有効であり、その整備を進める必要があると考えている。

震災時には、家が住める状態の方は、自宅で避難生活を送ることとなると思うが、そうでない方は避難所で生活を送ることとなり、避難所の数は想定されるそのような方を受け入れられる計画となっている。

食糧のこともお話ししたい。先程、3日間、72時間しのいでほしいというお話をしましたが、食糧につきましては、1日2食として、1日分は市、1日分は県、もう1日分は各家庭で確保してほしいという考えです。各家庭にはお米や冷蔵庫には野菜などもあり、その活用を図りたいと考えている。各家庭では、お米は無くなったら買うのではなく、無くなる前に買い足して、常に一定量があるようにしてほしい。このことが備蓄になります。

分館の関係は、これは非常に難しい話であり、簡単にはお答えできない部分がある。合併した団体で、従来やってきた手法があり、どうしてもやり方の違いがある、そのことが大きな課題、懸案になっている。分館として長年やってきたことをすぐに変えることは難しいと考えている。しかし、皆さんに時間を掛けてご理解いただきたいことは、公民館の分館として位置付けられているということは、皆さんが利用する場合には減免団体として無料で利用できているということで、電気代、水道代、修理代などさまざまなものには税金が使われ

ているということです。かつては財政が豊かな時もあったが、現在は企業が撤退するなどして財政的に厳しい時代になっている。そのような状況で、行政が分館をどうするのかとういことではなく、税金が投入されていることから皆さんが利用する時には受益者負担として利用料をいくらかでも払っていただき、皆でこの建物を維持していくということも一つの方法論ではないかと考えている。しかし、旧上福岡方式のように集会所となると、全町会・自治会に作ることでとなり不可能なことである。今ある施設をどのように活用し維持していくかということを考えるべきであり、自ずと答えが出てくるのではないのでしょうか。合併したのだから、いきなりどちらかに片寄せすることは考えていない。本市でも、もっとお金を掛けたい部分はある、そのためには何かを我慢しなければならない状況であることも事実です。特に災害については、備えが必要であり、できる所は早期に対応していきたいと考えており、分館も避難場所となることから慎重に考えていきたい。

◆本来、いままでどおり使用してよいと聞いたかったが、将来、民間化していきたい気持ちはあるのか。

☆そこに暮らす人たちが自分たちで運営していくことは望ましいと考えている。自分たちでできることは自分たちでやってほしい。現在、協働のまちづくりと言われているが、これは行政でできないことを市民に方にやってもらうのではなく、自分たちでできることは自分たちでやろうということだと考えている。私が、分館はこのままでよいと言えば、それは良かったとなるが、それでよいのか、政治家はきれいごとならいくらでも言える。ですから申し訳ないと思っていますが、ここで、介護保険料を値上げさせていただきました。多くの苦情を言われているが、介護保険計画は3年計画で、その前の平成21年度から23年度の計画では、1円も値上げしてこなかった。これは、基金を取り崩して充てていたため、その間に100円でも値上げしていたならばこれ程の値上げにはならなかった。いま値上げしておかなければ基金は底をついてしまい運営ができなくなる恐れがあるので、将来を考えると今やらなければならないと判断し皆さんには良くないことではあるが、値上げをさせていただきました。

◆しかし、仕事が無い方も多くいる状況で、苦しい世帯も多い。

☆低所得の方の値上げ幅は抑えられている。しかし、家計への負担にはなってしまうとは認識している。

◆かつて近くの山下ゴムで火災があり、いざという時にホースが使用できないと心配なので自治会費で買い替えた。現在、下水道清掃の時にそのホースを活用し重宝している。

◆ホースだけというものもあるが。

☆行政では、そのようなものの把握ができていないので、現在、町会・自治会に調査を依頼している。説明不足の部分があったが、行政が把握していないものについて報告をお願いしたい。

◆昭和40年代から50年代半ば位までは、当時の消防がまだ弱かったので、旧

大井町から業者に簡易消火栓の設置をお願いしていた経緯があった。開発業者が設置をして、自治会で管理していたが、消防本部ができて消防が充実し、火災への対応ができるようになったため、昭和50年代半ばから設置を止めてしまった。

☆昭和40年代初めの頃は、入間東部消防組合はなく消防団に頼っていた。

◆阪神淡路大震災を境に住民による初期消火の重要性が叫ばれたため、消防で調査をしたが、民設のものが多く把握ができなかった。

☆そのまま現在に至っている。昭和46年頃に福岡町に消防が出来て、それが現在の入間東部地区消防組合になった。そこから消防力が高まり、簡易消火栓の存在がうやむやになってしまった。今後は、民間設置されたものも極力公的な管理をしていきたい。

◆現在ある消火栓について、補助を出してもらえるのか。

☆現物を見させて下さい。

◆以前、不動産会社に簡易消火栓を撤去してほしいと言われ撤去した。消防に相談しても撤去しても構わないと言われた。消防では把握していないようである。

☆せっかくある資源は公的に管理して残したいと考えている。先程も話しましたが、東京都のように消防署が使用する消火栓に直接つなぐことができるようなホースがあり、それも良いのではないかと検討している。

◆防災用飲料水の井戸が大井地区には少なく感じるがどうか。

☆飲料用防災用井戸は大井地区にしかない。上福岡地区には、水道水を貯める耐震性貯水槽しかない。

◆ガス管工事で、埋設する管を太くしてそこにガスを貯蓄しようとしているようであるが、市と調整しているのか。

☆ガス管を太いものにして貯蓄している話は初めて聞いたので、調査してみます。

◆防災行政無線の整備を3年計画で実施するとしているが、現在聞こえない。その間に何かあったら役に立たない。もっと早く整備できないか。

☆風向きの影響などもあるが、スピーカの向きを変えれば聞こえることもあるので、現地を見てみます。

◆畑にいと三芳町の防災行政無線はよく聞こえるがなぜか。

☆現地を見てみますが、富士見市、三芳町や川越市と隣接している地域では、その逆もあり、ふじみ野市の防災行政無線は聞こえるがうちのは聞こえないとの苦情が他市には入っているとのこと。

◆大井総合支所の整備でこちらが出張所的になってしまうと災害で本庁が使えなくなった時に役に立たなくなるので、本庁と同様な機能にしてほしい。総合支所となっているだから出張所的になるのは約束が違うのではないか。

☆当時は経費を削減し合併効果を上げるために本庁に片寄せをした経緯がある。しかし、それは止むを得ないことであったが、就任後は支所でできる業務を増やし、現在はこちらでできる業務が多くなっている。しかし、どうしてもできない業務があった場合には本庁に行けるようなシャトルバスのものを検討し

たい。

◆富士見市ではライフバスがあるが。

☆本市も循環バスが走らせているが、3千万を投入しても利用者は少なく赤字となっているため、交通に不便ではない人からは止めるべき言われ、障がいのある人や高齢者からは止めないでほしいと言われている。運賃を払って路線バスを使っている人もいるので、交通空白地域を走る循環バスについても、所得の低い人などを除いて、有料化も検討する必要があると感じている。

◆住宅の苦情などはどうすればよいのか。

☆市政への提案という制度があり、公民館や支所などに投書箱が置いてあります。メールや窓口に提出しても結構です。